

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 25 年度(2013 年度)第 4 四半期)

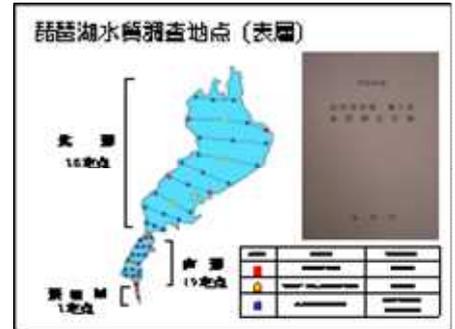
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 25 年度第 4 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央 (通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



◎調査結果について

琵琶湖北湖の代表点として 17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 25 年度第 4 四半期までの水質概況は次のとおりです。

○ 唐崎沖中央調査結果

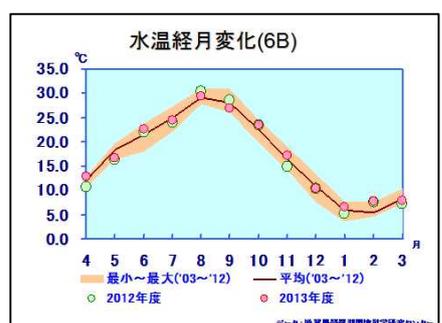
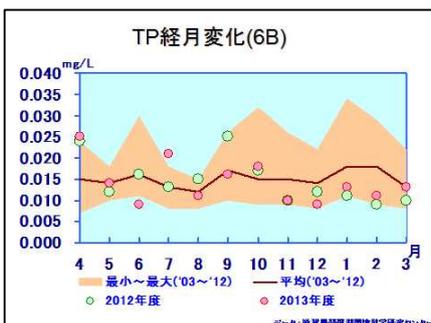
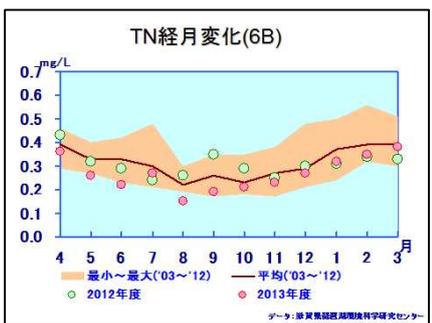
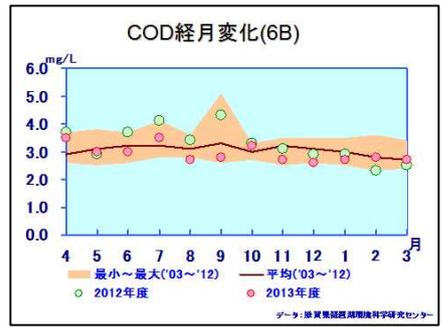
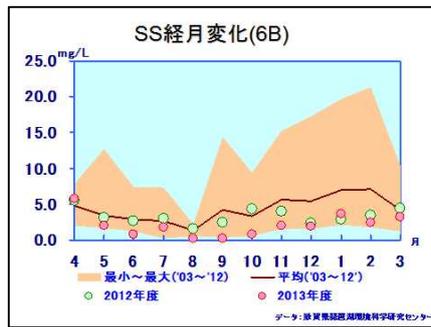
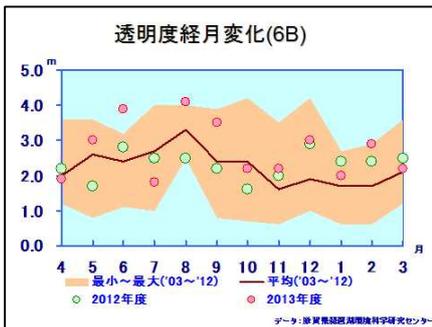
透明度については、1 月は過年度(過去 10 年間)平均値並の値でした。2 月は過年度平均値より少し高い値でした。3 月は再び過年度平均値並の値でした。

SS は 1、2、3 月とも過年度平均値よりも低い値となりました。

有機物汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、1 月が過年度平均値よりも少し低い値を示しましたが、2 月、3 月は過年度平均値並の値でした。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、1、2 月は過年度平均値よりも少し低い値となりました。3 月は過年度平均値並の値でした。全りん(TP)は、1、2 月は過年度平均値よりも少し低い値となりました。なお、南湖 19 地点の平均値では、1、2 月が過年度最高値を上回り、かなり高い値でした。3 月は過年度平均値並の値となりました。

水温は、1 月は過年度平均値並の値でした。2 月は過年度平均値よりも高い値となりました。3 月は再び過年度平均値並の値となりました。



○今津沖中央調査結果

透明度については、1月は過年度平均値並の値でした。2月は過年度平均値より低い値となりました。3月は過年度平均値並の値となりました。

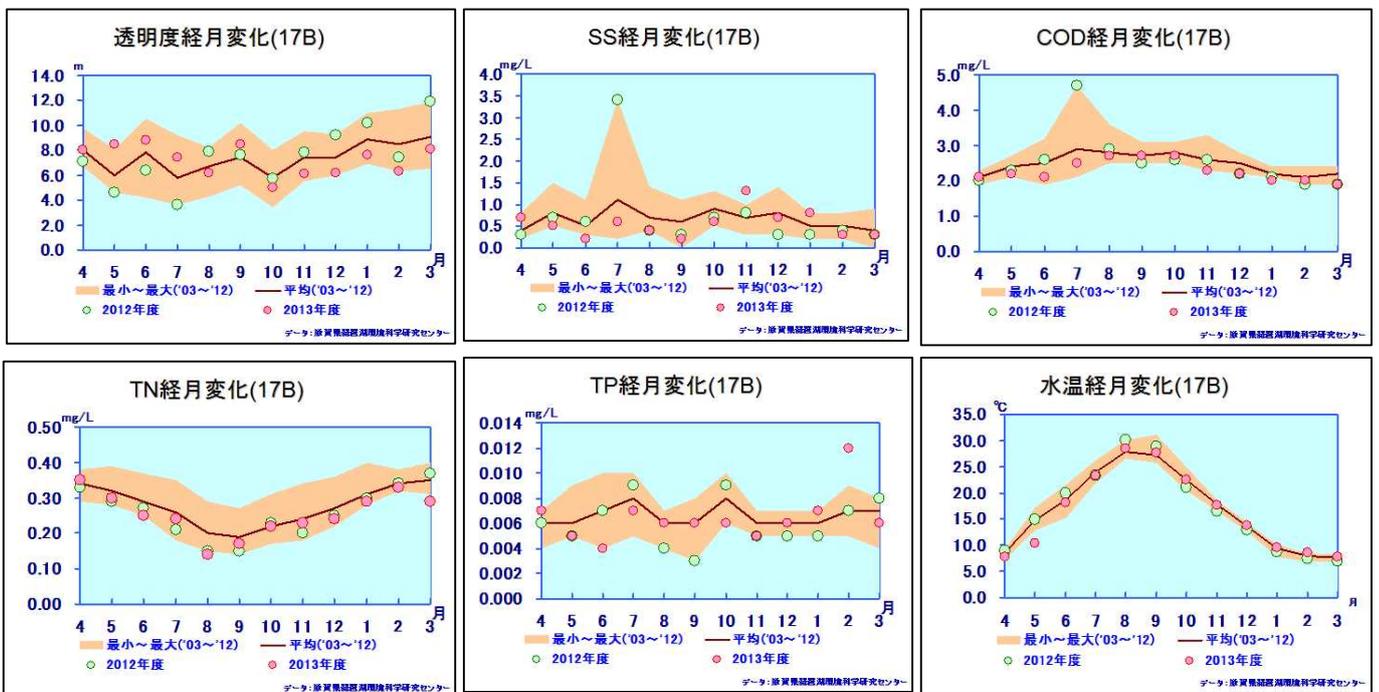
浮遊物質(SS)については、1月は過年度平均値よりも高い値となりましたが、2、3月は過年度平均値並みの値となりました。

CODについては、1月は過年度最低値(2.1 mg/L)よりも低い値(2.0 mg/L)となりました。2月は過年度平均値並みの値でしたが、3月は過年度最低値(1.9 mg/L)と同値となりました。特に第4四半期は全般的に値が低くなりました。

全窒素(TN)は、1月から2月にかけては過年度平均値並みの値となりました。3月は0.29 mg/Lとなり、過年度最低値(0.31 mg/L)を下回る結果となりました。

また、全りん(TP)は、1月は過年度平均値並みの値でしたが、2月は過年度最高値となる0.012 mg/Lとなりました。この時期に測定した他の北湖地点でも一時的に濃度の上昇がみられました。(北湖 28 地点の過年度平均値 2月:0.007 mg/L 2014年2月平均値:0.011 mg/L)3月は再び過年度平均値並みの値となりました。

水温は、1月は過年度平均値並みの値でしたが、2月は過年度最高値となる8.6℃となりました。1月下旬から気温が高い期間が続いたことで、一時的に成層ができたことが原因と考えられます。3月は過年度平均値並の値となりました。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

環境監視部門 公共用水域担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: dc51400@pref.shiga.lg.jp